

松原 洋子（立命館大学人間科学研究所所長／先端総合学術研究科教授）

司会（安田） 続きまして、今年度より人間科学研究所の所長に着任いたしました松原洋子教授よりご挨拶をいただきます。松原先生、どうぞよろしく願いいたします。

松原 皆様、おはようございます。ただいまご紹介いただきました、人間科学研究所所長の松原と申します。本日は朝早くからお出かけくださりまして、誠にありがとうございます。先ほど渡辺副学長からお話しいただきましたとおり、人間科学研究所は外部の大型資金を獲得しながら、大小様々なプロジェクトを展開して参りました。そのうち、現在最大のもが本日シンポジウムを開催いたします「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学＝実〉連環型研究」となります。



さて、皆様もご存知のとおり、障害者権利条約が2006年に国連で採択されまして、日本も2014年に批准をいたしました。障害者権利条約の大きな特徴は、まさに今回のテーマである「インクルージョン」です。多様な特性を持った障害のある方々が完全に社会に参加し、そして社会がその方々を包摂（インクルージョン）する——今回のプロジェクト報告会はまさに時宜を得たものと考えております。

このプロジェクトで特に注目していただきたいのは、大学院生や博士号を取ったばかりの若手研究者が多く参加していることです。また、本日ご登壇いただきますように支援の現場で活躍されておられる実務家の方々との連携も、大きな特徴です。さらに高齢の方、障害のある方をはじめとする当事者とともに研究をすすめていることも、重要な点です。今回の報告会でも、視覚障害や聴覚障害のある方々への情報保障を行うべく準備を整えてまいりました。

本日は朝から夕方まで充実したプログラムが組まれており、私自身非常に楽しみにしておりますが、皆様に特にご参加いただきたいのは11時からのポス

ターセッションです。この建物の4階で開催されます。研究報告が13本、活動報告が4本予定されており、特に若手研究者ががんばっています。サンドイッチ等も用意しているようですので、ぜひ発表者と和やかかつ闊達な意見交換を楽しんでいただきたいと思います。

なお、3年間にわたる「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」プロジェクトでは、活動内容を『インクルーシブ社会研究』という冊子にまとめており、今日までに8号発行しております<sup>1)</sup>。会場入口を出て右手に積んでおりますので、ぜひお持ち帰りいただいて、ご覧いただければと思います。私のご挨拶はこのくらいにさせていただきます。皆様、本日はどうぞよろしくお願い致します。

---

注1) 本冊子刊行時点では15号発行。